

## ⑭ 県道羽島稲沢線新濃尾大橋架橋事業

受賞機関 愛知県 一宮建設事務所  
岐阜県 岐阜土木事務所

**キーワード** 県境橋梁、渋滞緩和、防災機能の向上、  
地域間連携、新技術の採用

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

一級河川木曽川に架かる長大橋の上部工架設において、河川中央付近で送出し作業が完了する構造条件に対し、後方回転・自走式手延機解体装置を用いた特殊な撤去工法を採用するとともに、木曽川のワンド群に生息する希少種を含む多様な生物の保全に配慮しながら大規模事業を完成させた点が評価された。

### 1. はじめに

新濃尾大橋は、愛知県一宮市と岐阜県羽島市を結ぶ、一級河川木曽川に架かる長大橋で、羽島市を起点とし、一宮市を經由して愛知県稲沢市に至る県道羽島稲沢線の一部として整備した。

上流に位置する濃尾大橋の渋滞緩和、本橋が結ぶ愛知県尾張西部地域と羽島市及び岐阜県西濃地域との交流促進・連携強化、並びに災害時の緊急輸送道路ネットワークの強化を図ることを目的としている。

### 2. 事業の概要

新濃尾大橋における上部工架設は、出水期でも施工が可能な送出し工法を基本に計画した。上部工形式は、5径間＋4径間連続鋼非合成箱桁を採用しており、構造上、河川の中央付近で送出し作業が完了する。通常、送出しに使用した手延機は、到達側にクレーンを配置して撤去するが、本橋では河川内にクレーンを配置することができないため、「後方回転・自走式手延機解体装置」を用いた特殊な工法により撤去した。



施工状況

また、架橋位置の周辺には、木曽川のワンド群が広がっており、希少種を含む多様な生物が生息する良好な環境が形成されている。このことから、学識者等からの助言を受けながら、周辺の自然環境の保全を図った。

### 3. 事業の成果

新たな撤去工法の採用により、手延機をブロックごとに解体・撤去できるようになり、工期の短縮につながった。また、桁上での解体作業やクレーンによる吊り作業が減少し、作業の安全性が向上した。さらに、仮栈橋の設置及び撤去が不要となり、河川内での作業が減少したことで、周辺の自然環境への影響も少なくなった。

学識者の指導のもと、河川管理者や環境部局等とも連携し、環境保全対策を適切に講じる体制を構築した。これにより、周辺環境への影響を効果的に抑えることができた。



開通式

### 4. おわりに

新濃尾大橋は、令和7年5月24日に開通した。開通後は、木曽川を渡る交通が分散し、長年にわたり慢性的な渋滞が発生していた濃尾大橋では、渋滞が緩和されている。

新濃尾大橋が、尾張西部地域と羽島市及び西濃地域の活性化並びに地域の防災力向上の一助となることが期待される。

賛助会員 パシフィックコンサルタンツ(株)、  
(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)横河ブリッジ、  
JFEエンジニアリング(株)